

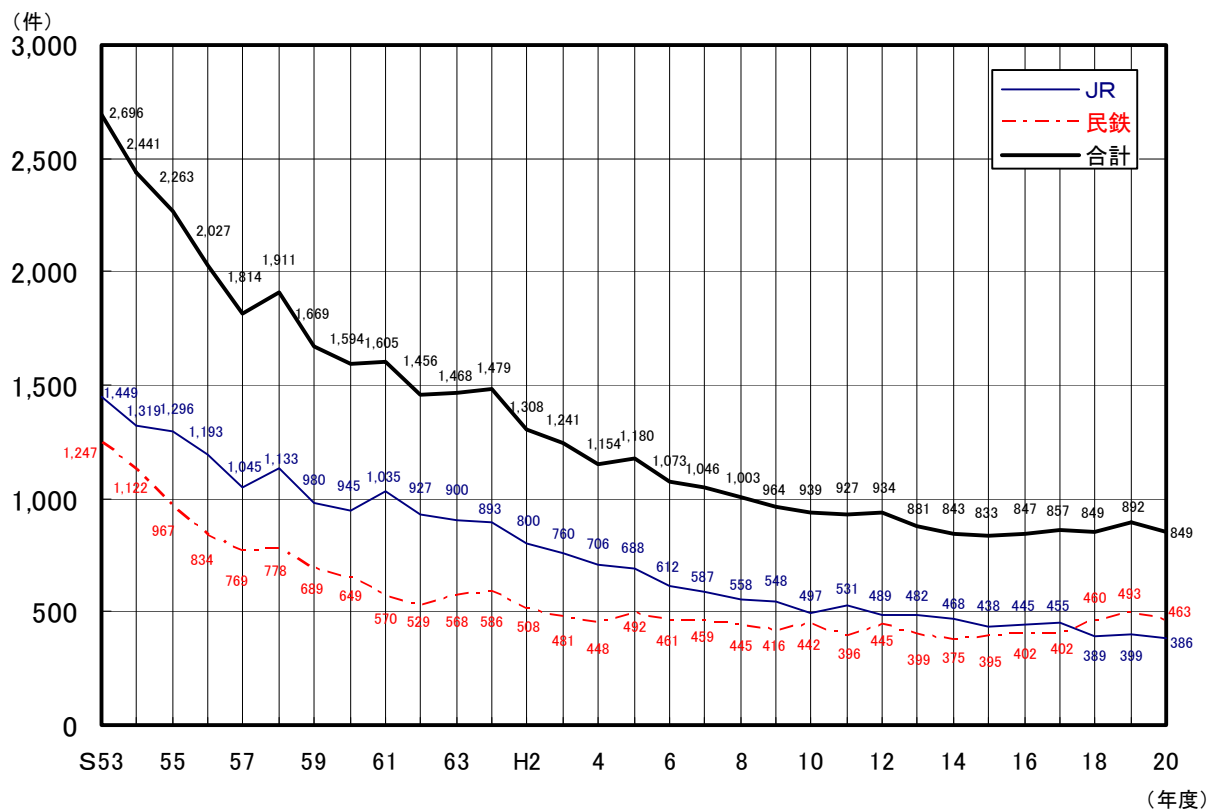
## 2 運転事故に関する事項

### 2.1 鉄軌道における運転事故の発生状況等

#### (1) 運転事故件数の推移

- 平成 20 年度に発生した鉄軌道の運転事故は 849 件であり、対前年度 43 件(4.8%)減でした。
- 運転事故件数は、長期的には減少傾向にあり、平成 13 年度からは 800 件台で推移しています。
- 30 年前の昭和 53 年度には、現在の3倍以上の約 2,696 件の運転事故が発生していましたが、踏切事故防止対策、自動列車停止装置(ATS)等の整備・改良等を実施してきた結果、運転事故件数は大きく減少しました。

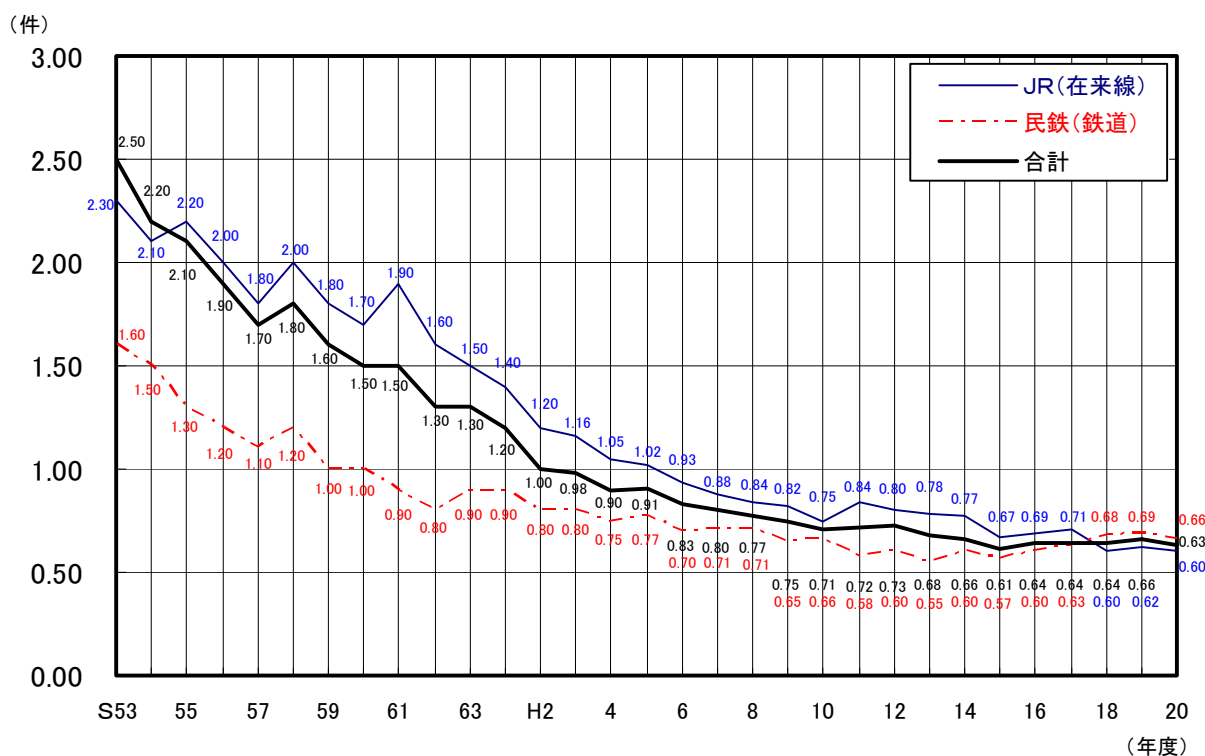
図4:鉄軌道の運転事故件数の推移



## (2) 列車走行百万キロ当たりの運転事故件数の推移

○列車走行百万キロ当たりの運転事故件数は、運転事故件数と同様に長期的には減少傾向にあります。平成13年度からは0.6件台で推移しており、平成20年度は0.63件でした。

図5: 列車走行百万キロあたりの運転事故件数の推移



※ グラフ中の「合計」は、JR(在来線+新幹線)と民鉄(鉄道+軌道)の合計である。

## (3) 運転事故の種類別発生状況

○平成20年度の運転事故件数の内訳は、線路内立入りやホーム上での接触などの人身障害事故<sup>9</sup>が436件(51.4%)で対前年度12件増、踏切道における列車と自動車との衝突などの踏切障害事故が312件(36.7%)で対前年度38件減、路面電車と自動車との道路上での接触などの道路障害事故が80件(9.4%)で対前年度18件減などとなっています。列車衝突事故(軌道における車両衝突事故を含む。以下同じ。)、列車脱線事故(軌道における車両脱線事故を含む。以下同じ。)及び列車火災事故(軌道における車両火災事

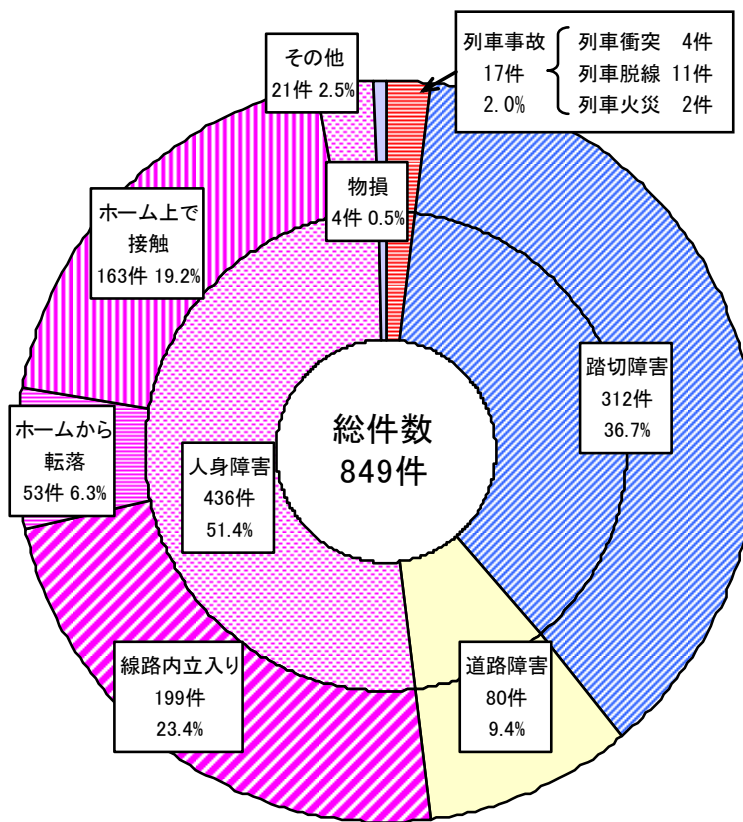
<sup>9</sup> 自殺を直接原因とするものは、人身障害事故に該当しません。運転事故の種類については、後掲の「用語の説明」を御覧ください。

故を含む。以下同じ。)は、合わせて17件(2.0%)でした。

踏切障害事故312件のほか、踏切障害に伴う列車脱線事故及び列車火災事故がそれぞれ1件あったので、平成20年度の踏切事故<sup>10</sup>は314件(37.0%)でした。

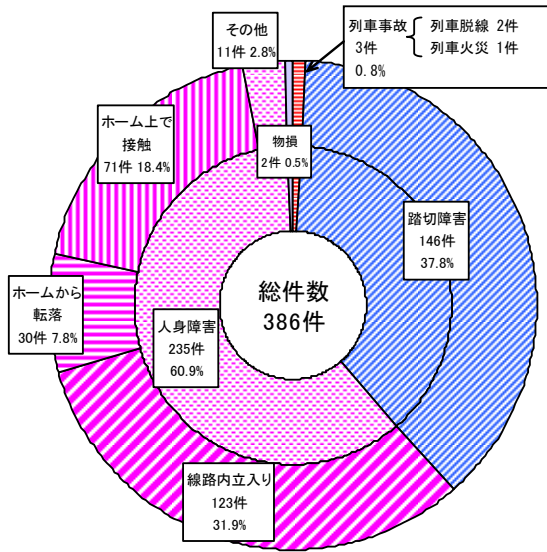
図6: 運転事故の種類別発生状況(平成20年度)

① JR(在来線+新幹線)と民鉄(鉄道+軌道)の合計

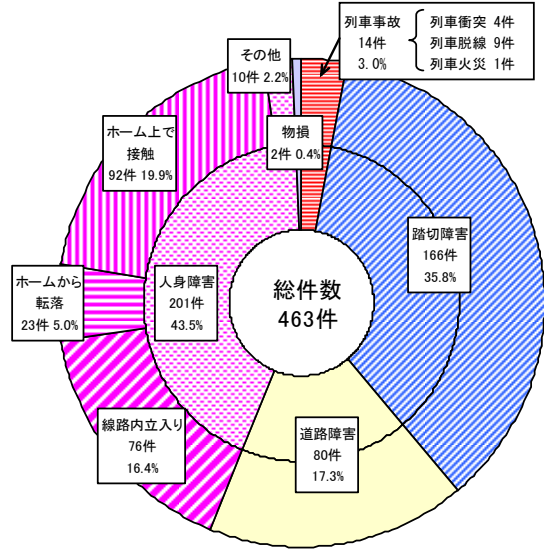


<sup>10</sup> 踏切道における列車と自動車の衝突であっても、それが列車衝突事故、列車脱線事故又は列車火災事故に至った運転事故は、踏切障害事故ではなく列車衝突事故等に分類されます。「踏切事故」は、このような踏切障害に伴う列車衝突事故等及び踏切障害事故の総称です。

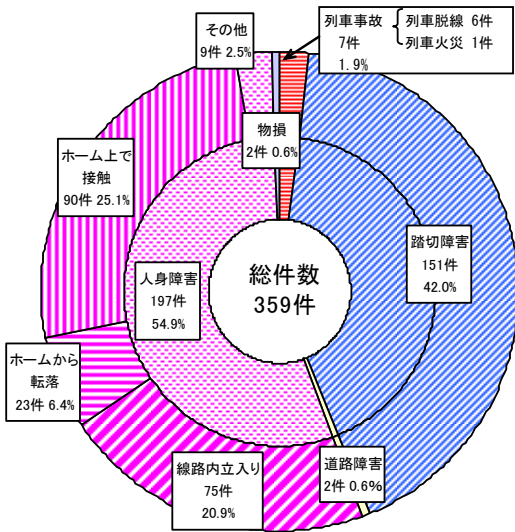
② JR(在来線+新幹線)



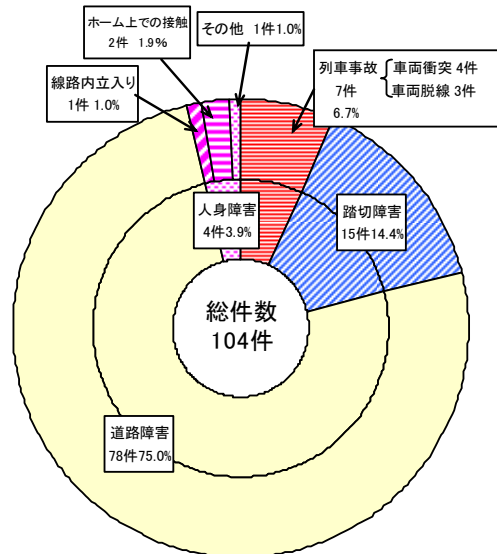
③ 民鉄(鉄道+軌道)



③-1 民鉄(鉄道)



③-2 民鉄(軌道)



○身体障害者の方が死傷した運転事故は3件(いずれも視覚障害者の方が死傷した事故)でした。

#### (4)平成 20 年度における重大事故の発生状況等

- 平成 20 年度は、重大事故(死傷者 10 名以上又は脱線車両 10 両以上)がありませんでした。
- なお、運輸安全委員会の調査対象となった運転事故<sup>11</sup>は、平成 20 年度発生した運転事故 849 件のうち 14 件(1.6%)でした。

---

<sup>11</sup> 運輸安全委員会が調査対象とする運転事故(鉄道事故)は、鉄道における列車衝突事故 列車脱線事故及び列車火災事故、その他の運転事故であって、5人以上の死傷者を生じたもの、乗客、乗務員等が死亡者を生じたもの等です。詳しくは、<http://araic.assistmicro.co.jp/araic/railway/index.html>を御覧ください。

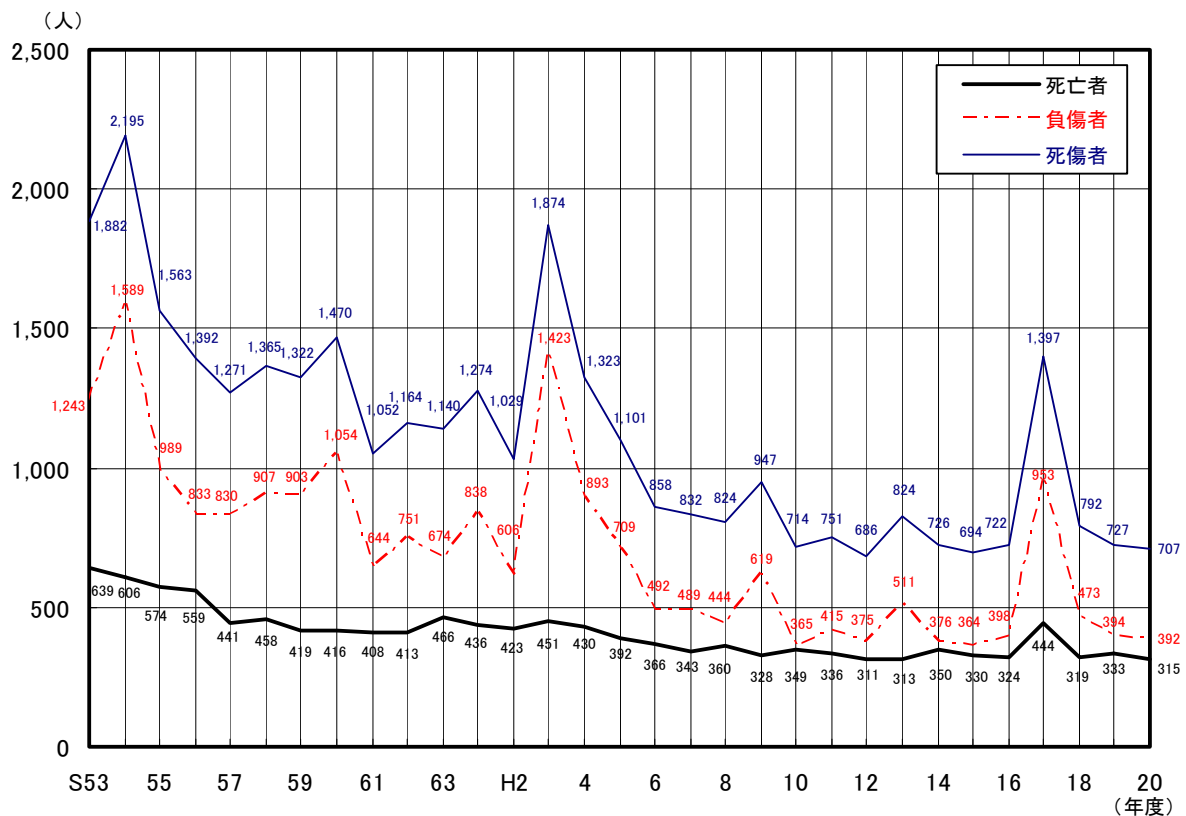
## 2.2 運転事故による死傷者の発生状況

### (1) 死傷者数の推移

○平成20年度の運転事故による死傷者数は707人であり、対前年度20人(2.8%)減、うち死亡者は315人で対前年度18人(5.4%)減でした。

○運転事故による死傷者数は、運転事故件数と同様に長期的には減少傾向にありますが、JR西日本福知山線列車脱線事故があった平成17年度の死傷者数が1,397人であるなど、甚大な人的被害を生じた運転事故<sup>12</sup>があった年度の死傷者数は多くなっています。

図7: 運転事故による死傷者数の推移

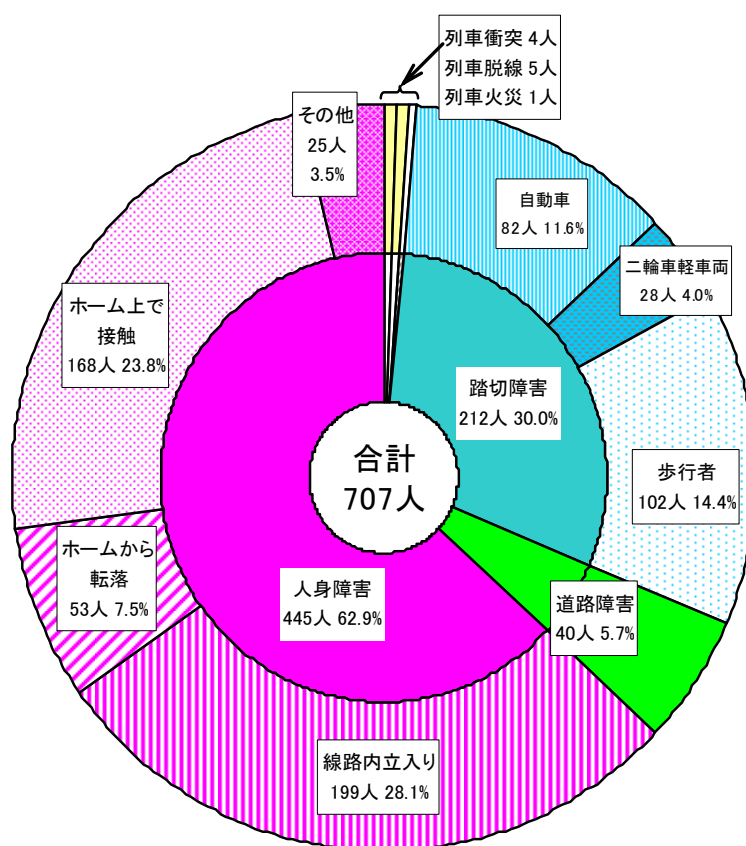


<sup>12</sup>重大な人的被害を生じた運転事故(過去30年間)を資料9に掲載しています。

(2) 事故種類別の死傷者数

- 平成 20 年度の死傷者数の内訳は、人身障害事故によるものが 445 人 (62.9%) で対前年度 15 人増、踏切障害事故によるものが 212 人 (30.0%) で対前年度 33 人減、道路障害事故によるものが 40 人 (5.7%) で対前年度 6 人減などとなっています。
- 踏切障害事故による死傷者 212 人のほか、踏切障害に伴う列車火災事故及び列車脱線事故による死傷者が 2 人ありましたので、踏切事故による死傷者は 214 人 (30.3%) でした。

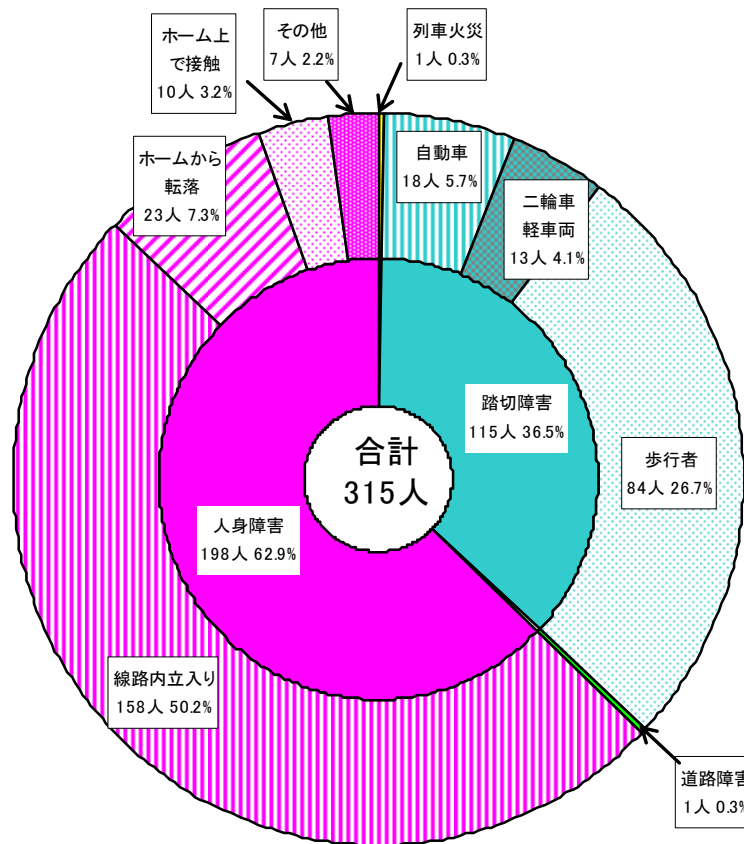
図8: 事故種類別の死傷者数(平成 20 年度)



(注: 自殺を直接原因とする死傷者は含まない。)

- 平成 20 年度の死亡者数の内訳は、人身障害事故によるものが 198 人(62.9%)で対前年度 3 人減、踏切障害事故によるものが 115 人(36.5%)で対前年度 13 人減でした。
- 人身障害事故による死亡者の 79.8%は公衆が線路内に立ち入ったもの、踏切障害事故による死亡者の 73.0%は踏切を横断する歩行者によるものです。
- 踏切障害事故による死亡者 115 人のほかに、踏切障害に伴う列車火災事故による死亡者が1人ありましたので、踏切事故による死亡者は 116 人(36.8%)でした。なお、死亡者 116 人は全て踏切通行者であり、列車の乗客等の死亡者はありませんでした。

図9: 事故種類別の死亡者数(平成 20 年度)



(注: 自殺を直接原因とする死亡者は含まない。)

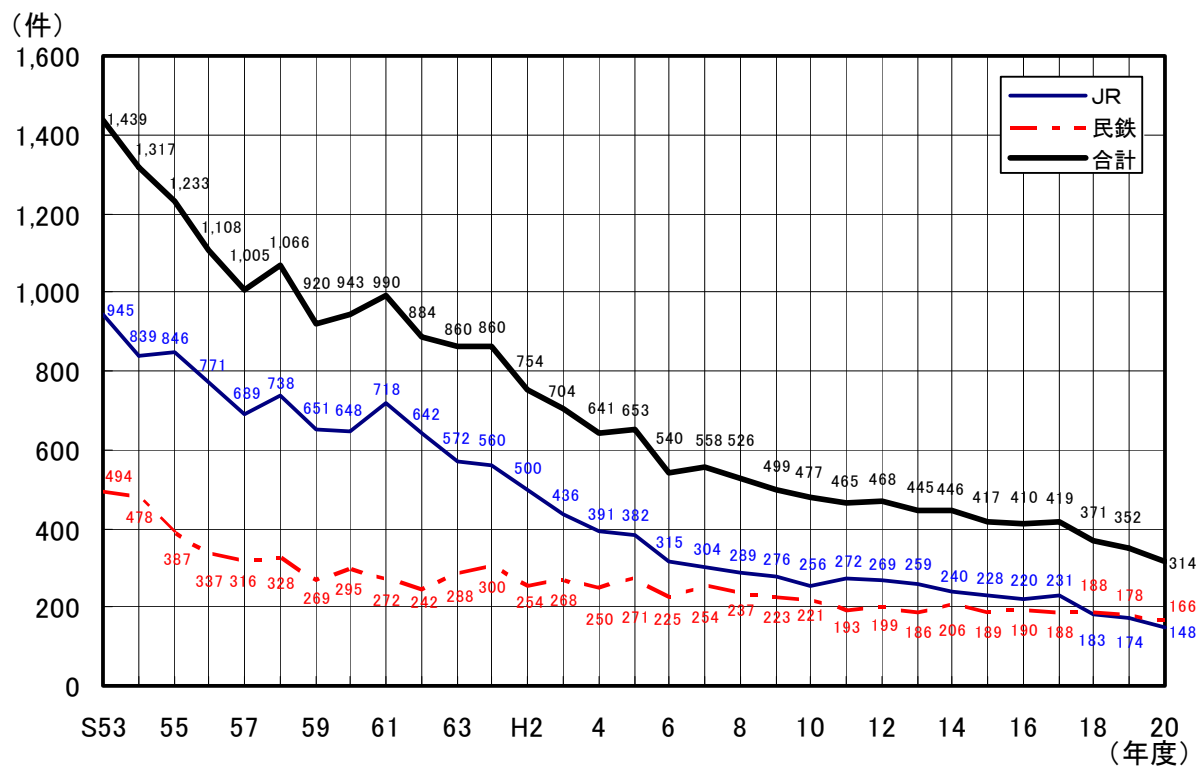


## 2.3 踏切事故の発生状況

### (1) 踏切事故件数の推移等

- 平成 20 年度に発生した踏切事故<sup>13</sup>は 314 件で、対前年度 38 件(10.8%)減でした。
- 踏切事故は、踏切遮断機等の踏切保安設備の整備等により、長期的に減少傾向にあり、運転事故に占める割合も低くなってきましたが、それでも依然として 37.0%を占めています。
- 身体障害者の方が死傷した踏切事故は1件(視覚障害者の方が死亡したもの)でした。

図 10: 踏切事故件数の推移

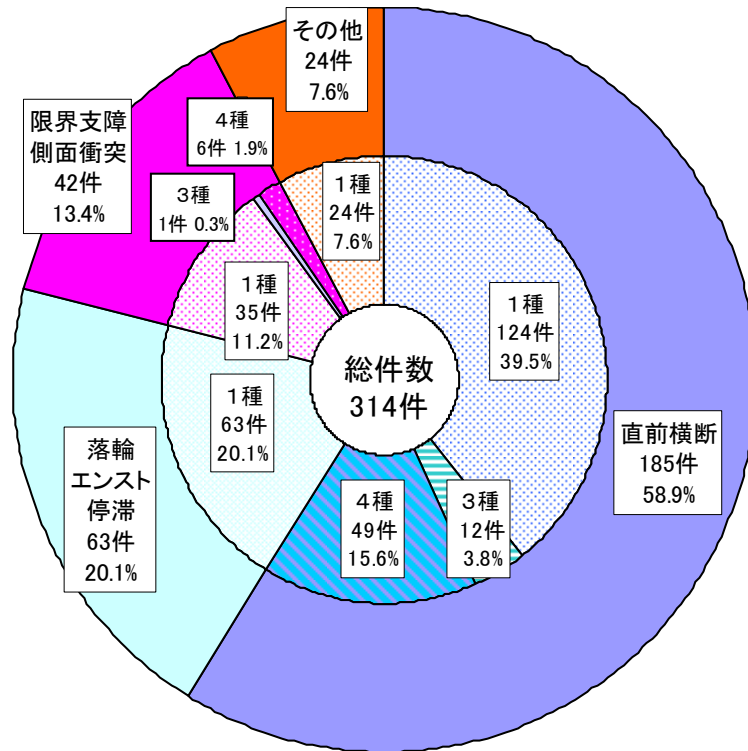


<sup>13</sup> 脚注 10 をご覧ください。

(2)原因別・踏切種別別の踏切事故件数等

○踏切事故件数の内訳は、歩行者や自動車などの直前横断によるものが185件(58.9%)、自動車の落輪等により立ち往生したものが63件(20.1%)となっています。

図 11:原因別・踏切種別別の踏切事故件数(平成 20 年度)



限界支障:自動車等が踏切道の手前や先で停止した位置が不適切であったために、列車と接触したものの  
側面衝突:列車の通過中に自動車等が進入し列車の側面に衝突したもの

第1種踏切道:昼夜を通じて踏切警手が遮断機を操作している踏切道又は自動遮断機が設置されている踏切道

第2種踏切道:1日のうち一定時間だけ踏切警手が遮断機を操作している踏切道(現在設置されているものはない。)

第3種踏切道:警報機が設置され遮断機のない踏切道

第4種踏切道:踏切警手もおらず、遮断機も警報機も設置されていない踏切道

○平成20年度における踏切道100箇所当たりの踏切事故件数は、第3種踏切道が1.37件、第4種踏切道が1.62件となっており、これらと比較すると一般的には道路の交通量若しくは列車の本数が多く、又は列車の速度が高い傾向にある第1種踏切道の0.82件よりも高くなっています。

表2:踏切種別別の踏切道100箇所当たりの踏切事故件数等(平成20年度)

	第1種踏切道	第2種踏切道	第3種踏切道	第4種踏切道	計
踏切道数 (年度末)	29,900 〔87.3〕	0	947 〔2.8〕	3,405 〔9.9〕	34,252 〔100〕
踏切事故 件数	246 〔78.3〕 <0.82>	0	13 〔4.1〕 <1.37>	55 〔17.5〕 <1.62>	314 〔100〕 <0.92>
踏切事故 死亡者数	98 〔84.5〕 <0.33>	0	5 〔4.3〕 <0.53>	13 〔11.2〕 <0.38>	116 〔100〕 <0.34>
踏切事故 負傷者数	57 〔58.2〕 <0.19>	0	15 〔15.3〕 <1.58>	26 〔26.5〕 <0.76>	98 〔100〕 <0.29>
踏切事故 死傷者数	155 〔72.4〕 <0.52>	0	20 〔9.3〕 <2.11>	39 〔18.2〕 <1.15>	214 〔100〕 <0.62>

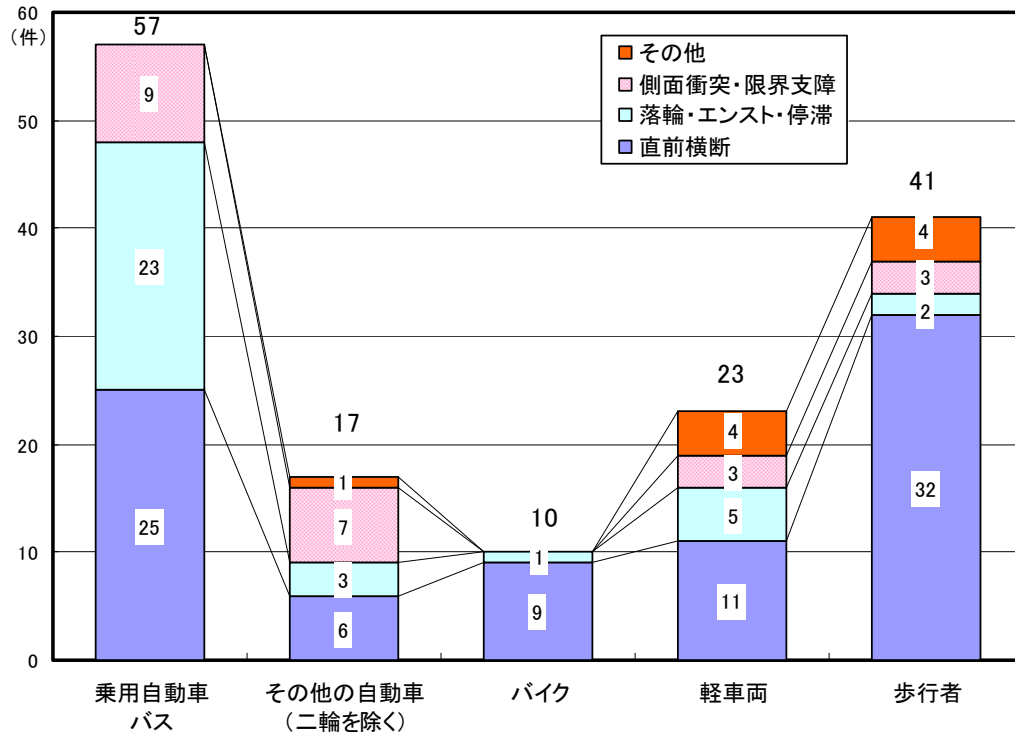
※1 〔 〕内の数値は、構成比(%)である。四捨五入しているため、その和が100%となっていないものがある。

※2 < >内の数値は、踏切道100箇所当たりの踏切事故件数等である。

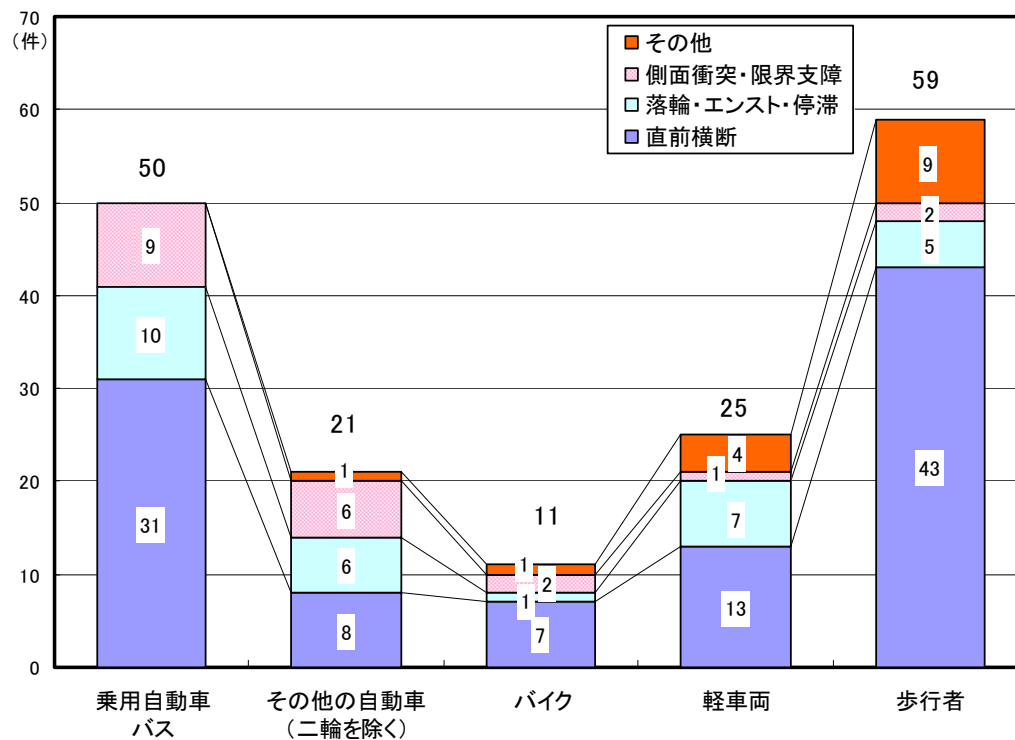
(3) 衝撃物別・原因別の踏切事故件数

図 12: 衝撃物別・原因別の踏切事故件数(平成 20 年度)

① JR



② 民鉄

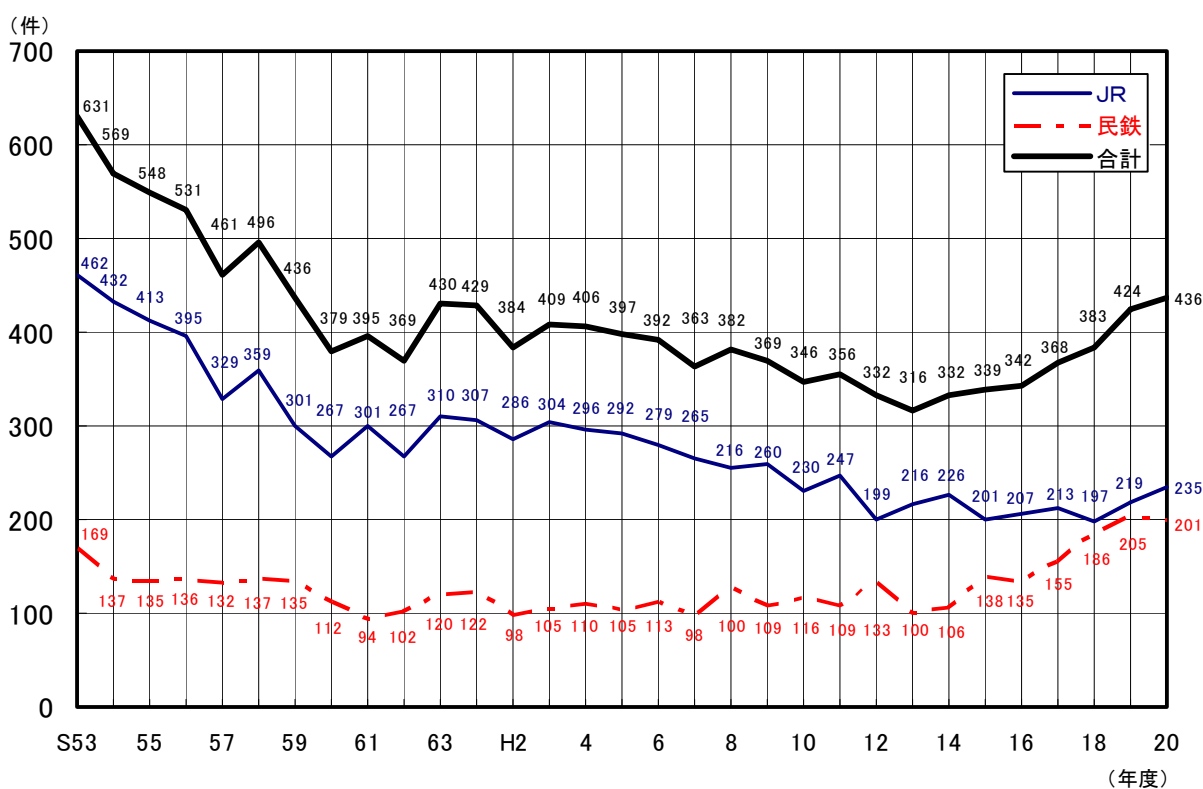


## 2.4 人身障害事故の発生状況

### (1) 人身障害事故件数の推移等

- 平成 20 年度の人身障害事故<sup>14</sup>は 436 件で、対前年度 12 件(2.8%)増でした。
- 運転事故件数が長期的に減少傾向にある中で、人身障害事故の件数は平成 14 年度から増加傾向にあり、平成 20 年度には運転事故件数の 51.4%を占めました。
- 身体障害者の方が死傷した人身障害事故は2件(いずれも視覚障害者の方が死傷した事故)でした。

図 13: 人身障害事故件数の推移

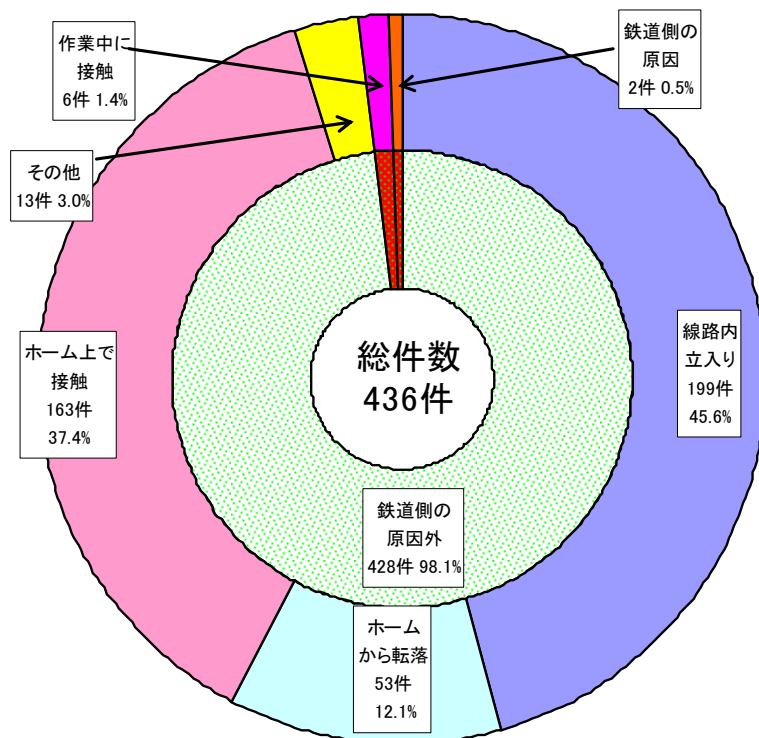


<sup>14</sup> 脚注 9 をご覧下さい。

## (2)原因別の人身障害事故件数

○人身障害事故の内訳は、歩行者等が線路内に立ち入ったことによるものが 199 件 (45.6%)、ホーム上での接触によるものが 163 件 (37.4%)となっています。

図 14:原因別の人身障害事故件数



## 2.5 事業者区分別の運転事故件数

○ 事業者区分別の運転事故件数は次のとおりです<sup>15</sup>。

表3:事業者区分別の運転事故件数(平成 20 年度)

事業者区分	事故種別	列車衝突	列車脱線	列車火災	踏切障害	道路障害	人身障害	物損	合計	列車百万当たり件数	列車走行キロ(百万キロ)
J R (在来線)			2	1	146		234	2	385	0.60	642.19
J R (新幹線)							1		1	0.01	139.43
大手民鉄			3	1	83		120		207	0.65	316.75
公営地下鉄等							47	1	48	0.46	104.26
新交通・モノレール								1	1	0.05	20.64
中小民鉄			3		68	2	30		103	0.97	105.94
路面電車		4	3		15	78	4		104	4.26	24.42
合計		4	11	2	312	80	436	4	849	0.63	1,353.64

<sup>15</sup> 事業者別の運転事故件数の詳細を資料1に掲載しています。